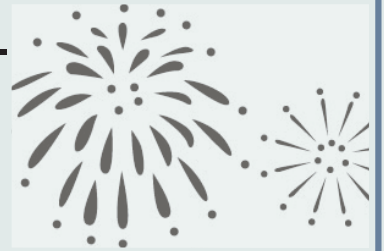




たまシネマ通信



TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

Contents

- 特別上映会『隣る人』 / ● 特別上映会レポート『季節、めぐり それぞれの居場所』
- 第22回映画祭TAMA CINEMA FORUMについて / ● お知らせ etc.

8/25(土) 特別上映会

とな 『隣る人』

「『隣る人』、僕は推しますよ!」。一昨年10月『ハーツ・アンド・マインズ〜ベトナム戦争の真実』の特別上映会の際トークゲストでお招きした綿井健陽(わたい たけはる)さんに、昨年10月の山形国際ドキュメンタリー映画祭でまたお会いした際、お聞きした言葉です。

(「となるひと」か。変わった響きの言葉やなあ)とその時は思いながら半年経過し、春に試写会で初めて鑑賞。じわじわと作品の余韻が体内で響く中で『少年と自転車』や『KOTOKO』を観て、私の腹は決まりました。この作品の上映会をやりたい!と。

『隣る人』の舞台は児童養護施設。描かれているのは主に子どもたちと保育士さんたちの日常です。その日常の光景からふと、自分の経験や思い出、日本の近代史等々と私の中でとても広がってきたのです。「子どもの問題」とは正確には子どもに凝縮されてしまう、子どもに降りかかってしまう問題であり、作品に描かれているのは大人の問題、日本の歴史・社会の問題だと私は思うのです。

けれど『隣る人』はそんなことを声高に言いません。どんなふうにもでも観てください!とばかりに日常の光景が映し出されるだけです。でもそれは、観る側をとても信頼し、尊敬している証拠なのだとも私は思います。そしてこのような作品であるがゆえに逆によくの方たちが作品について語り、監督はさまざまな方たちとトークを重ねてられています。教育関係・福祉関係の方たちだけでなく、今、大注目の若手監督たちや働き方研究家、精神科医、国会議員と、ほんとにさまざまな方たちが自分に照らして語る、語りたくなる。そんな作品が『隣る人』です。

監督の刀川さんは上述の綿井さんと同じアジアプレスインターナショナルに所属。刀川さんと8年間の撮影を受け容れた「光の子どもの家」から菅原理事長をお招きし、お二人に各回の上映後にトークを行っていただきます。お客様からたくさんの感想や質問を是非いただければと思っております。

(越智)



TAMA CINEMA FORUM

第22回映画祭 [11/17(土)~24(土)]

皆で創る
市民の映画祭!!
ただいま準備中

第22回映画祭 TAMA CINEMA FORUM は、11月17日(土)~24日(土)に開催されます。

そのプログラムの中から、メインとなる TAMA 映画賞と TAMA NEW WAVE について簡単にご紹介します。

第4回TAMA映画賞 (11/23(祝)開催予定)

今年で第4回目を迎える TAMA 映画賞。今年度(昨年10月から今年9月)に劇場公開された作品の中から、最も観客に活力を与えてくれた作品・監督・俳優を讃えます! 国内の映画賞の中で最も早い時期の発表となる映画賞です。

今回も素晴らしいゲストによる華やかな授賞式と受賞作品の上映をどうぞお楽しみに。



第3回 TAMA 映画賞授賞式より

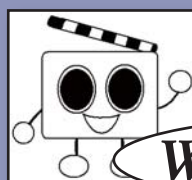
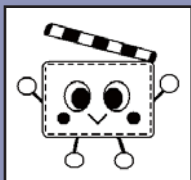
[TAMA映画賞 これまでの受賞作品・受賞者(敬称略)]

	第1回	第2回	第3回
作品賞	『ディア・ドクター』 (西川美和監督) 『ウルトラミラクルラブストーリー』 (横浜聡子監督)	『告白』 (中島哲也監督) 『さんかく』 (吉田恵輔監督)	『一枚のハガキ』 (新藤兼人監督) 『奇跡』 (是枝裕和監督)
新進監督賞	深川栄洋、北川悦吏子	川口浩史、山本寛	深田晃司、前田弘二
新進男優賞	高良健吾、渡辺大知	大西信満、金田哲	古館寛治、染谷将太
新進女優賞	満島ひかり、金澤美穂	安藤サクラ、忽那汐里	井上真央、二階堂ふみ
特別賞	八千草薫、木村大作	若松孝二	原田芳雄、岸田繁
男優賞	*第2回より創設	堤真一	光石研
女優賞		寺島しのぶ	永作博美、小西真奈美

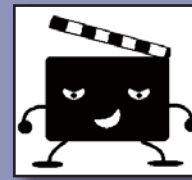
最新情報や詳細は下記にて順次アップしていきます。

<http://www.tamaeiga.org/>

Twitterでもチェック!! <http://twitter.com/tamaeiga> http://twitter.com/tcf_nw



We love Cinema

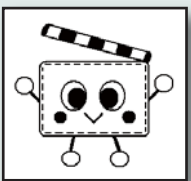


第13回 TAMA NEW WAVE (11/18(日)開催予定)

今年で第13回目を迎えるTAMA NEW WAVEは、日本映画界に新風を送り込む新しい才能を発見しTAMAより広く発信することを目的とした、中・長編映画コンペティションです。2000年に第1回目が開催され、今年で13回目を迎えます。国内の作品を対象に、実行委員の審査を経てノミネートされた応募作品の中から、委員会内の評価と一般審査員の票によって、グランプリを決定致します。ゲスト審査員による特別賞もあります。

TAMA NEW WAVE 歴代の主なグランプリ受賞作品 (☆は各監督の最近の活躍)

	作品名	監督
第2回	『自転車とハイヒール』	深川 栄洋 ☆ 最新作『ガール』(出演:香里奈ほか) 劇場公開中
第8回	『かざあな』	内田 伸輝 ☆ 『ふゆの獣』(2010) が第11回東京フィルメックスコンペ部門最優秀作品賞受賞
第10回	『最低』	今泉 力哉 ☆ 最新作『こっぴどい猫』(主演:モト冬樹) が今年7月に劇場公開
第11回	『未来の記録』	岸 建太郎 ☆ 本作が昨年劇場公開
第12回	『私の悲しみ』	堀内 博志 ☆ 本作が今年7月に劇場公開



たまシネマ隊 (映画祭期間ボランティア) 募集説明会を行います!

映画祭期間と準備段階(10月~11月)のみお手伝いしていただく期間ボランティア“たまシネマ隊”を募集しています。

映画祭期間中3日以上参加できる方、または準備期間中に活動できる方が条件となります。

今年は9月30日(日)と10月14日(日)に説明会を開催予定です。映画祭の裏側をスタッフとして覗いて見ませんか?

詳細は、HP (<http://www.tamaeiga.org/>)、チラシなどをご覧ください。



昨年のシネマ隊募集説明会の様子

7/7 (土) 特別上映会レポート

特別上映会『季節、めぐり それぞれの居場所』

七夕の日、永山ベルブホールで大宮浩一監督の『季節、めぐり それぞれの居場所』の特別上映会が行われました。大宮監督作品の特別上映会は今回で3度目です。

前作『ただいま それぞれの居場所』で紹介されたデイサービスでのその後。今回は特に「死」を前面に出し「看取られる」側と「看取る」側、断ち切られる日常が、それでも静かに記憶の舟に乗り流れていくさまを季節の移り変わりと共に映し出していました。

客層はやはり高齢者の方が多く、アンケートでも自分に照らし合わせた言葉が多く書いてありました。「老い」への不安、残される者への負い目。家族の絆が構造的に壊され続けざるを得ない現実で、それでも疑似の家族を求めなければならないとしたら。映し出される介護の世界に、アンケートでは「認知症への不安」、逆に「介護される安心」、「介護職に向かう希望」など多く答えていただきました。

トークで監督は「<それでも日々日常は続いていく>ということを東日本大震災の映像に重ねたかった」とおっしゃっていました。

また、今回のトークでは、今作品から離れ、監督の映画に対する想いや助監督時代のこと、



トークでの大宮監督(右)

ドキュメント論などについても、自在に語っていただきました。かなりテンションを上げられ、帰られる際「言いたいことは言った」と大満足でした。次回作は編集段階に入っており、「介護」とは離れ、一人のダンサーを追った作品になるようです。年末か年明けの公開予定だそうです。

上映会の興業的には成功と言えない結果でしたが、来場された方々の熱い支援の言葉と、スタッフの方々、特に新人の方々のご協力に本当に感謝いたします。ありがとうございました。

(竹内)

支援会員募集中です！

「実行委員やたまシネマ隊として参加するのは難しいけれどTAMA映画フォーラムを応援したい」そんな方はぜひ「支援会員」としての応援をお願いいたします。

支援会員募集要項

1. 郵便振替の用紙で登録をしていただきます。
2. 用紙に必要事項を書き込んで下記委員会宛にお送りください。
3. 支援金寄付 個人会員 一口1000円
4. ご協力いただいた支援会員の方には新たに会員証を発行いたします。会員証のご提示により、映画祭のパンフレットの贈呈、年数回の特別上映会の入場料割引などの特典がございます。

- 問い合わせ先 TAMA映画フォーラム実行委員会 支援会員募集係 E-mail: tcf-support@tamaeiga.org
- 申込み先 郵便振替番号 00160 - 5 - 541123 加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会